



## 書評白熱! ビブリオバトル秋田県大会 2020年11月23日 in 秋田拠点センター・アルヴェ

今年で7回目を迎える「ビブリオバトル秋田県大会」が、11月23日(月)〈勤労感謝の日〉秋田拠点センターアルヴェきらめき広場を会場に開催されました。県内各地区大会を勝ち抜いた中学生7人、高校生6人が出場し、それぞれに選んだ一冊の本を手に、身振り手振りや様々な工夫を凝らしながら熱弁を振るいました。出場者と紹介された本は次のとおりです。

	氏名	学校名	年	書名(著者名)
中学生の部	高橋 奏江	美郷町立美郷中学校	2	片想い探偵 追掛日菜子(辻堂ゆめ)
	北川 一愛	能代市立東雲中学校	3	家庭教室(伊東歌詞太郎)
	宮川 愛美	鹿角市立十和田中学校	2	ひと(小野寺史宜)
	藤原 琉人	湯沢市立山田中学校	3	まんがでわかる 頭に来てアホとは戦うな!(田村耕太郎)
	鶴田琉太郎	横手市立横手南中学校	2	永遠の0(百田尚樹)
	伊藤 大輝	由利本荘市立本荘東中学校	3	走れメロス(太宰治)
	木村 高子	県立秋田南高等学校中等部	3	人材島(根本聡一郎)
高校生の部	高清水遥都	県立大館桂桜高等学校	2	きのうの影踏み(辻村深月)
	佐藤 晃文	県立能代高等学校	1	夢をかなえるソウ(水野敬也)
	笠原 七海	県立大曲高等学校	1	あなたのゼイ肉、落とします(垣谷美雨)
	佐藤 萌佳	県立本荘高等学校	2	蜜柑(芥川龍之介)
	戸嶋 心聖	県立秋田北高等学校	1	ループ・ループ・ループ(桐山徹也)
	小南 紗英	県立湯沢翔北高等学校雄勝校	1	あずかりやさん(大山淳子)

### ビブリオバトル あきたルール

- 1 発表参加者(バトラー)が、読んで面白いと思った本を持って参加する。
- 2 順番に一人5分間で本を紹介する。(バトラーは、5分間を使い切る)
- 3 それぞれの発表の後に、会場参加者全員でその発表に関するディスカッションを2分間行う。
- 4 すべての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を、会場参加者全員一票で行い、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする。

大会当日の司会は、エフエム秋田の高橋航さんと大島貴志子さんが担当。また、読売新聞秋田支局支局長の田中成浩さん、タレントのバリトン伊藤さんほか3名の方たちがゲスト審査員として講評と投票に参加してくださいました。



ゲスト審査員のみなさん

アルヴェきらめき広場の特設会場は100名を超える聴衆で埋まり、投票の結果、中学生の部チャンプ本には、秋田南高等学校中等部3年木村高子さんの「人材島」が、準チャンプ本には十和田中学校2年宮川愛美さんの「ひと」が選ばれました。また、高校生の部チャンプ本には湯沢翔北高等学校雄勝校1年小南紗英さんの「あずかりやさん」が、準チャンプ本には本荘高等学校2年佐藤萌佳さんの「蜜柑」が選ばれました。



中学生の部  
チャンプ本の  
木村高子さん



中学生の部  
準チャンプ本の  
宮川愛美さん



高校生の部  
チャンプ本の  
小南紗英さん



高校生の部  
準チャンプ本の  
佐藤萌佳さん

なお、例年であればこの後東京都内で全国大会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながら今年度は中止となりました。



# 体験活動ネットワークフォーラム開催

12月13日(日) 秋田県生涯学習センター

秋田県「体験の風をおこそう」運動推進委員会が主催する標記のフォーラムが、12月13日(日) 県生涯学習センターを会場に開催されました。この活動は、子どもたちが様々な活動を体験しながら心身ともにたくましく成長していけるよう、国立青少年教育振興機構と関係団体が連携して運動を推進しているもので、秋田県でも平成27年度から参加しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今年度はフォーラムの時期が12月にずれ込み、また、子どもたちに実際の体験活動を提供することはできませんでしたが、県内で体験活動を提供している各種団体の展示・体験ブースの開設と、体験活動主宰団体代表による事例発表とディスカッションを行い、参加者同士で体験活動の重要性について再確認し合いました。

## 体験活動主宰団体による展示・体験ブース



秋田市のボランティアサークルくパンダの絵本修理屋さん>は、和綴じによる「ミニノート作り」の体験を提供。



大館市の秋田看護福祉大学<B愛STARピアサークル>は、活動の様子やピアカウンセリングについて紹介。



潟上市で体験活動を提供している<追分フェスタ>は、紙紐でつくる「シュロのヘビ作り」ブースを開設。



八峰町の白神体験センターは、自然木とアイボルト(ねじ)を使った「バードコール作り」の体験を提供。

このほかに、県内の3少年自然の家が、それぞれの特徴ある体験活動の紹介や、自然物を使った工作の体験活動ブースを開設しました。

## 事例発表とディスカッション

事例発表では、秋田県「体験の風をおこそう」運動推進委員会の小池孝範会長（秋田大学教育文化学部准教授）がコーディネーターを務め、県内で優れた体験活動を提供している3つの団体の代表の方々が、日頃の素晴らしい取組の様子を発表してくださいました。



秋田市追分地区で学習塾を経営する佐藤存さんは、「うきうき！わくわく！ときめく出会い！～創立10周年 追分フェスタの軌跡～」と題し、同地区に転居してきた10年前に、地域を活性化するために自らが発起人となって立ち上げた地域イベント創出・交流支援団体『追分フェスタ』の取組や、自らが代表を務める家庭教育支援団体NPO団体「はにかむ」の実践を紹介しました。



あきた白神体験センター研修企画係長の田口圭さんは、「こころとカラダに効く体験あります！～体験活動の企画や実施を通して～」と題して、コロナ禍の中での体験活動提供について、感染予防対策で工夫している点や苦労している点を紹介し、大人や施設がきちんと役割を果たしながら、子どもたちにこれまでと変わらない体験活動を提供していこうと呼び掛けました。



コーディネーターを務めた小池会長が、「パネリストの方々やフロアから頂いた貴重な意見を参考にしながら、今後も秋田県の取組をより一層充実させていきましょう」と述べ、ディスカッションを締めくくりました。



大館市にある秋田看護福祉大学の<B愛STARピアサークル>に所属する伊藤藍加さんと中嶋萌和さんは、「思春期ピアカウンセリング～自己肯定感向上プロジェクトふれあいキャンプの体験を通して～」と題し、適応指導教室に通う小・中学生とふれあいキャンプで交流し、自分のライフラインについて考えさせ、自己肯定感を育んだ実践事例を紹介しました。

